

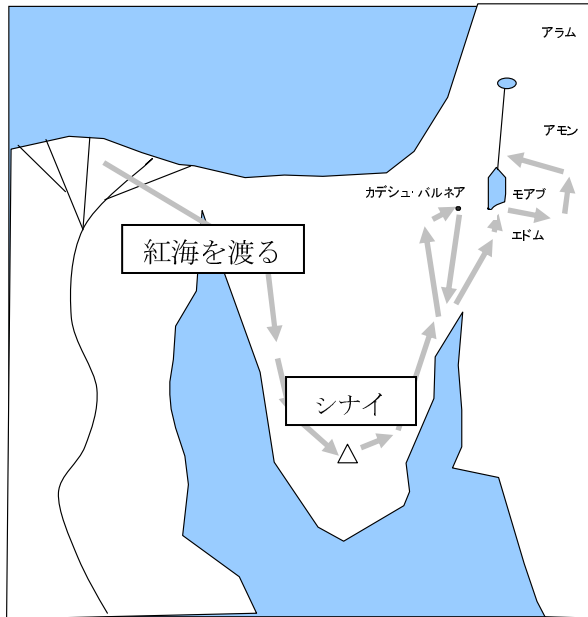
2014年11月16日 主日礼拝

説教「十誡」

出エジプト記 20章 1-17節

【出エジプト、そしてシナイ】

まず出エジプト、それからシナイ山。この順序は決定的にたいせつです。まず救われ、それから神さまとともに歩く歩き方が教え



られるのです。

救いは、おきてを守ったから得られるものではありません。神さまは、よいことをすることができない人であればあるほど、あわれに思ってくださいのお方です。そうして、救ったその後で、神さまと共に歩く歩き方を教えてください。

【十戒ではなく十誡？】

漢字で書くと、普通は十の戒めと書きます。けれども、十戒の戒にあたる単語は、もともとは、「ことば」という意味です。だから「十戒」は「神さまと歩く歩き方を教える十のことば」です。ひょっとすると「十誡」と「ごんべん」を付けたほうがふさわしいかもしれません。律法（トーラー）もまた、神さまと共に歩く歩き方を教えます。ほうびがもらえるからよいことをし、罰せられるから悪いことをしない、という生き方ではありません。神さまの愛を知った者は、そういう損得のようなこととは違う次元で生きるのです。自分を愛してくださる神さまと共に生きたい、神さまのように愛したいと願うのです。

【第4誡】

安息日を定めた第4誡。人は罪のために「一生、苦しんで食を得なければならない」（創世記3：17）ことになりました。けれども神は一週間のうち一日を休みの日、神を喜ぶ日とするように教えられました。神さまと人がたがいを喜び合う以外のことをしない日。それが安息日です。あのマナは、安息日の前日には二日分降りました。そのように、週に一度の主の日を守っても困らないように、神さまは養ってくださいます。それは、強制ではなく、喜びの日。さらに言うならば、人生の目的は、神さまと愛し合い、神の民が

たがいを喜び合うことにあります。ですから、安息日を、神さまといっしょに祝わないことは、人生の意味を見失うことです。一週間に七日間働けば、人よりも多くの収入を得ることが出来るかも知れません。けれども、その結果は、人生の意味を見失ってしまうことなのです。

【人生の旅の歌】

私たちは聖書のメッセージを聞いても、もう少しよくわかってからとか、自分はまだまだだから、と言って実行することを遅らせるということはないでしょうか。

けれども、私たちはすでに神の子とされています。神さまの民です。神さまはじっとしておられる神さまではありません。神さまはイスラエルとともに、荒野を旅してくださいました。今も、神さまは私たちとともに旅をなさいます。毎日の私たちの旅路を、私たちと共に歩んでくださるのです。また、私たちを連れて、今まで見たことのない場所へも行かれます。神さまを知らない人のところへ。新しい宣教の冒険へと。

詩篇 119 編 54 節に「あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました」とあります。私たちはトーラーを口ずさみ、十誡を歌います。それはおきてではなく神さまの愛の歌だからです。この歌を口ずさみつつ、神と人への愛を生きていくのです。